県女第一期生より、皆実高校生に至る
121 年の歴史に連なる者。
また今後、この同じ流れに連なる者、
手をつなぎ足音高く歩もう。
足音高く声を揃えて元気に歩もう。
我等は、皆実有朋会会員（38,644 人）である。
歩もう、歩もう力強く！

皆實有朋

No. 85 2022（令和４）.12. 10

皆実有朋会 新体制始動

新会長あいさつ
〝コロナ禍を乗り越えて〟
第10代皆実有朋会会長　城（しろ）　一博（かずひろ）（皆実24期）

会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。５月の常任幹事会・幹事会で会長に選任された、皆実24期の城一博です。

コロナ禍により３年間皆実有朋会定期総会を開催できなかったことは、大変残念なことですが、ワクチンや治療薬の普及が進みつつあり、国も対策を講じながら日常の活動を再開する方向に舵を切りましたので、来年こそは総会で皆様にお会いできることを願っています。

我が皆実有朋会は、そんな不自由な期間中でも、コロナ対策を講じながら、様々な活動を継続してきました。

昨年の皆実有朋会奨学財団設立への支援や、全国大会に出場する皆実生への激励金贈呈など、母校発展に資する支援をはじめとして、広島第一県女原爆犠牲者追悼式に取り組む事業委員会や、資料の収集・整理・保管に取り組むアーカイブズ継承委員会、皆実有朋新聞編集に取り組む広報委員会などの活動は、それぞれに続いています。

また総会が中止でも当番期は総会プログラムを作成されるなど、コロナ禍の制約の中、工夫をしながら努力してこられた関係者の皆様に、心から敬意を表し感謝を申し上げます。

そして、会員の皆様には、同窓会基金会計・アーカイブズ会計・皆実生を全国に送る会会計にお寄せいただいたご寄付や、総会プログラムへの広告のご掲載によって、同窓会の様々な活動を支えていただいていることに、厚く御礼を申し上げます。

それから、昨年同窓会が設立を支援した奨学財団が、無事公益財団法人に認定されて、寄付者も財団も税金の優遇を受けられる体制が整い、５月には第１号の奨学生に奨学金の支給を開始されたことを、この紙面でご報告しておきます。

今後とも、皆実有朋会へのご寄付をはじめとするご支援を心からお願い申し上げるとともに、折角設立された奨学財団が、末永く皆実生の大学進学を支援できますように、会員の皆様からのご寄付による奨学財団へのお力添えも、合わせてお願い申し上げ、結びに、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げまして、ご挨拶といたします。

城会長（左）から
森田前会長（右）に花束贈呈
（令和４年５月１８日）

辞任のあいさつ
第9代皆実有朋会会長　森田　健司（皆実16期）

学校創立１１０周年を控えた前年の２０１０年に皆実12期の後藤増雄さんより来年会長を引き受けるので力を貸して欲しいと言われ、尊敬していた先輩でしたので同窓会執行部の役員を引き受けました。翌２０１１年、第58回総会で同窓会では初めての男性会長として後藤増雄さん（皆実12期）が就任されました。しかし１ヶ月後急逝され、１年間は副会長全員で代行したのち〝青天霹靂〟何の準備もないまま会長を引き受けることになりました。

以来10年が過ぎました。入学式、同窓会入会式では私が在学していた時の木村二郎校長先生が「皆実高校は日本一の高校だ……」と話されたことを必ず生徒たちに話しました。たいしたこともできず会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、私の最大の功績は 能力・才能・人格・識見、申し分ない方を次期会長に推薦できたことだと自負しています。

これからも、皆実高校の益々の発展と充実、同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。